

2026.2.26 (木)
第 32 回例会
(通算3841回)

2025-2026 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

会 長 荒井 剛
副 会 長 池田 一己
幹 事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
RI 会長 フランチェスコ・アレツォ
第 2500 地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北 RC)

本日のプログラム 職場訪問例会「NHK 釧路放送局」(職業奉仕委員会)

次週例会 嵯峨記念奨学生卒業報告会 (嵯峨記念育英会委員会)

- ロータリーソング：四つのテスト ■ソングリーダー：倉見 悠介君
- 会員数 106 名
- ビジター 釧路北ロータリークラブ 菊池 美恵子パスト会長
- ゲスト

会長の時間 荒井 剛会長



皆さん、こんにちは。私は今日楽しみにしてまいりました。NHK 釧路放送局の職場訪問例会にあたり桑嶋局長、また NHK 釧路放送局職員の皆さま、ご準備

いただきましてありがとうございます。
今日は職場訪問例会です。ロータリーの原点は職業奉仕にあると思っておりますので、どんな職業奉仕があるのかなというところで、先月のロータリーの友 1 月号にこのような記事が紹介されていました。
福島ロータリークラブで扱われていた例会に『ワークウェア例会』というのがあります。普段は皆さんが着られているスーツで例会に参加するのですが、職業奉仕例会の一環としては、皆さんがそれぞれの仕事着・作業着を着て集まる例会を福島ロータリークラブでやられたと聞いております。
いろんな方がいますね。お医者さんだったり、私の弁護士だったり、料理人だったり、いろいろなたたくさんの作業着を着て、テーブルごとにそれぞれが自分の職業を「こんなことやっているんだ」と語り合うことをおとして、職業奉仕に触れる例会があると聞いておりました。そういう記事が紹介されていて、そういう例会があってもいいのだなと思ったところです。
今日は釧路ロータリークラブの職場訪問例会というこ

とで、ここ NHK 釧路放送局さんにお邪魔することになりましたので、過去にどんな所に行ったのかを私が入会した以降で調べてみたのです。私が入会したのは 2011 年 3 月 10 日。東日本大震災の 1 日前だったのです。そこから 16 年ぐらい経っています。いろんな所に行っていて多かったのが、ほくでんさん、日銀の釧路支店さんとか。一番多かったのが今はいろんな事情でやられていないけれども、毎年 3 月ころに福司例会を職場訪問例会の一環としてやられていました。私はその 3 月 10 日の職場訪問夜間例会・福司例会で入会したのでよく覚えています。

そんなことから、ぜひ NHK 釧路放送局で職場訪問例会を実現したいと思っていて、松井大委員長や残間職業奉仕委員長にお願いして、今日、このようになりました。本当にありがとうございます。

「NHK 釧路局にお邪魔したい」と話をしたところ、とある会員から「過去に釧路クラブで行ったことある」という話を聞きました。私が入会した以降はなかったので少し遡ってみますと、羽生会長の時にここに来ていたと分かりました。当時の NHK 釧路局長が井上利秋さんの時にお邪魔していることが分かりましたので、17 年ぐらい経っていると思います。

私自身はロータリー入って、ここに来るのが初めてです。今日一日をすごい楽しみにしております。この後、いろんな工夫をしていただいた映像を流させていただきます。2 班に分かれて会場を案内していただいて、映像も食べながらですので、少し時間が押していることから会長あいさつはこれぐらいとします。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

幹事報告 横田 英喜幹事

幹事報告をさせていただきます。今週、みなさんに連絡を差し上げましたが、下期の情報集会在3月中旬から下旬にかけて開催されます。リーダー、サブリーダーの方、いろいろとお手数をおかけしますが、ご協力をよろしくお願ひいたします。また、メンバーの皆さまもぜひ参加いただけるようによろしくお願ひいたします。以上となります。

■本日のプログラム■ 職場訪問例会「NHK 釧路放送局」

職業奉仕委員会 残間 巖委員長

皆さん、こんにちは。職業奉仕委員長を仰せつかっております残間と申します。今日はよろしくお願ひいたします。



本日は皆さまにNHK 釧路放送局にお越しいただきまして、釧路放送局が公共放送として、どのような地域に対して役割を果たしているか、そういったところを中心に桑嶋局長にお話いただきたいなと思っております。ここは昔に使っていたスタジオで、今は使っていないのですが、見てのとおり天井が高く、2日前から私たちのために暖房を入れてご用意いただいたそうです。職員の皆さまのご尽力に感謝の気持ちを込めながら、見学させていただきたいと思っております。本日一日、どうぞよろしくお願ひいたします。

NHK 釧路放送局 桑嶋 洋平局長



17年ぶりというのは、かなりご無沙汰して申し訳ありません。決して拒んでいたというわけではないのですけれども、私も過去の資料を探したのですが、一向に見つからないのでご無沙汰していて申し訳ございません。今日は皆さま、お忙しい中、釧路放送局にいらしていただきありがとうございます。こちらが一番大きなスタジオですが、実際に普段ニュースで使っているスタジオをご案内いたします。これからお食事になりますが、後ろでこれから映像を

流したいと思ひます。うちの放送局ができて88年が経ちますけど、以前に作った懐かしい釧路の映像をそのまま流すとかなり時間が長くなるので再編集しています。専用の映像を急いで作りましたので、スーパーが間違っている所もあるかもしれませんが、ご容赦いただければと思ひます。ぜひ見ていただければと思ひます。

流れとしては、映像が26分ぐらいあります。その後にニュースカメラマンの副部長から簡単に映像取材の流れの話をしていただいて、その後は2グループに分けて、ニューススタジオや災害に備えたダンボールベッドの部屋をご覧くださいことになります。普段のローカル放送というのは災害時に大事な一報を、われわれの最大のミッションとしてきちんと情報を出せるのか、そこが地域とのお約束だと思っております。普段からいろいろな訓練等はしているのですが、毎年、転勤等で人が入れ替わる中で、そのレベルを落とさずに行っていくのが、目下の課題であります。まだまだ至らない点があるのですが、今回の皆様のご訪問を受けて、職員一同が「さらに地域に貢献するという気持ちで頑張ろう」となりましたので、短い時間ですけれども、いろいろ見ていただければと思ひます。

本日はよろしくお願ひいたします。

(映像上映とお食事)

NHK 釧路放送局 桑嶋 洋平局長

映像取材の森下 晶副部長から今の撮影の機材等について簡単にご説明します。

NHK 釧路放送局 森下 晶 副部長



NHK 釧路放送局、いわゆる報道カメラマンの部署の副部長をしております森下と申します。私の出身は関西で、最初が札幌だったので北海道には何となく縁があって。全国転々としていますが、九州から大阪・東京とかにまたがって、一回は海外のインドに駐在をしていて、それから北海道に戻ってまいりました。普段、私たちが使っているカメラをご紹介できればと思ひます。皆さまも街中でなにかの事件・事故・火事などがあった現場では、こういうカメラを持った人間がたくさん集まっているのを見たことがあるかもしれませんが、



ベースはこの大きなカメラです。事件や事故とかいろいろなニュースの映像を撮るのにはこういうカメラでやっております。

この形はずっと使われていて、今も全国でNHKも含めて民放各局でも使っている物がほぼ同じだと思います。最近の状況をご説明すると、私どもでいうと映像で取材する私たちがいて、音声とかライトで補助しているのが2人、あと記者とディレクターが一緒に行く形が多いです。最近では生中継とか、撮った出来事がすぐ映像で出るのもあると思うのですが、これはLive-U(ライブユー)という機材で、カメラで撮った映像と音声をここ緑の線一本でつなぎます。この中には皆さんが使っているスマホに入っているSIMカードが入っていて、映像と音声を電波としてNHK釧路放送局に送り、皆さまのテレビに映るようにしているのが主流となっています。

今でもありますけども、昔は中継車というのがあってこの大きなトラックみたいな中継車がないと放送できなかった時代があったのですが、今はこういうLive-Uでできていますし、どんどん小型化してやっています。



どんどん機材も進歩しております。せっかくいろんなカメラを使っていますので、ご紹介します。

これは私たちが中型カメラと呼んでいるもので、私がインドに4年いたのですが、海外だとこれぐらいが多いです。これを持って行って取材するのです。性能としては、かなり高品質な映像が撮れますので重宝しています。

もっと小型の物もありますが、こういう物でも品質はかなり良くなっております。どんどん小さくなって、こういう物は皆さんの家庭用で、運動会を撮ったりするカメラでも十分撮れますね。逆にこういう物のほう



が撮りやすい現場もあるので、これもよく使われています。

最近になると、一眼レフカメラみたいな写真を撮るカメラのような形の

カメラがあるのです。これは報道というよりは企画と

いって、1人の人物をじっくりドキュメンタリーのように撮る時に、こういうカメラで撮ったほうがより印象的な映像を撮ることができるので、このカメラも制作現場やニュース現場でもかなり使われています。いわゆるYouTubeなど



ではいろいろな映像が昨今ありますけれども、映像クリエイターの方々もこういうのを使っていることが多いのです。

これはドローンと言われている物ですね。NHKも報道のためにドローンでの取材を行っています。もちろん、ヘリコプターもありますけれども、ヘリコプターとは違う角度、近さから、上空からしか見えない映像がありますので、ドローンを飛ばして現場で取材をすることも、日々、演習しながら、訓練しながら行っております。

こうしてカメラが小さくなっているのですが、最小単位というのが正にこれ、スマホなのです。海外でもそうですし、私たちも、記者も含めて1人しかいない時などは、AndroidでもiPhoneでも相当画質もクオリティも高いので、かなりきちんと映像が撮れるようになっています。しかも、映像をすぐに送れるような装置がスマホの中に入っているのです。これで実際に生中継もできます。海外の現場などでもスマホでリポーターや記者が立って中継しているのを私も何度も見えていますから、最近はスマホでも皆さんができるようになっています。

ここでご紹介させていただきたいものがあります。皆さんの前にチラシを



置かせてもらっていますけども、NHKには『スクープBOX』というものがあります。皆さんが撮った写真とか映像を「誰々さんが投稿

した映像です」となどとして、ニュース番組でたまに火事とかの現場が放送されることがあると思います。皆さんが、例えば目の前で大きな事件、事故、火事があった時に、これは、と思ったときにパッと撮った写真でもいいですし、映像10秒でも撮っていただければ、それを『NHKスクープBOX』というアプリで簡単なので映像を送ることができます。そこでは、連絡先なども入力するところがありますので、私たちから連絡させていただいて、撮っていただいた方から正確な情報を聞いた上で放送に出すことをやっております

すので、ぜひ、スクープBOXという仕組みがあるということをお知らせの方々にも広めていただければと思っております。
短くて恐縮でしたが、以上となります。ありがとうございました。

(放送局内の見学)

NHK釧路放送局 桑島 洋平局長

これから局内の見学・視察をしていただきます。前2列の方は私がご案内します。うしろ2列3列の方は副局長の中山がご案内します。お見せするのは、実際に使っているニューススタジオです。もうひとつは、災害時にたくさんの応援が来るので、そのための段ボールベッドの部屋をご覧ください。では、同時に動きますのでよろしくお願ひします。

(点鐘)